

令和3年度 公益社団法人 上伊那教育会 総研修会 「仰望の日」

令和3年5月19日（水） オンライン開催

原文章 上伊那教育会長 挨拶

本年度、公益社団法人上伊那教育会会長を務めさせていただきます高遠小学校の原文章と申します。よろしくお願いいたします。

本日は、令和3年度公益社団法人上伊那教育会総研修会『仰望の日』を開催しましたところ、信濃教育会長 武田育夫様のご臨席を賜り、1138名の会員の皆様と共にこの研修会を開催できますことを、心より感謝申し上げます。

さて、上伊那教育会は、明治12年、県下のどこよりも早くに発足した「上伊那教員集会」を出発としています。以来、長年に渡る先人たちの実践の積み重ねの中で、「はじめに子どもありき」「限りなき土着性の追求」「たゆまぬ教師の研鑽」は、上伊那教育会の確固たる基本理念として、私たち会員の心に刻まれるようになりました。

昨年度、平成24年度以来の大変大きな組織的な改変を行いました。まず、これまでの「研修部」に「上伊那教育編集委員会」を加えて新たな「研修部」としました。次に、15委員会で組織されていた「教科部」は、5委員会で組織されていた「社会部」と統合して「研究調査部」としました。また、「調査出版部」は、新設した4委員会に加え、「ギャラリー活用委員会」をここに移動して「児童生徒育成部」としました。「教育会館運営部」は、「会報委員会」をここへ移し、新設したグループウェア管理委員会と未来継承委員会を加え、「教育会運営・広報部」としました。郷土研究部及びあり方委員会については変更ありません。

今回、組織改編を機に教育課程研究調査事業の15委員会は、「研究調査」に軸足を置く委員会といたしました。10月の教育課程研究協議会の午後の運営は残しますが、あくまで研究調査に軸足を置く委員会にする、ということをお会員の皆さんにはご理解いただきたいと思います。教科等委員会の中で、運営に関する仕事が大きな比重を占めていた委員会については、その部分を切り離して、新たな委員会を設置することにしました。それは次の3委員会です。「国語委員会」の郡習字展の部分、「音楽委員会」の郡市連合音楽会の部分、「理科委員会」の科学作品展の部分、それぞれ切り離し、独立した委員会を設けました。教育課程研究調査事業（15委員会）の目指す方向は、「授業実践力を高める～個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指して～」であります。

次に、これまで「社会部」と呼んでいた「5委員会」、つまり「教育課題研究調査事業」のうち、大きな内容変更を行ったのは次の2委員会です。「学校図書館教育委員会」から読書感想文に関わる仕事を分離し、「読書感想文委員会」を新設しました。また、「情報教育委員会」が担っていた「親子映画鑑賞会」は、令和3年度もコロナの影響から休止とし、令和4年度以降は廃止することにいたしました。

従って、「学校図書館教育委員会」と「情報教育委員会」は、事業内容を全面的に見直す必要があります。今年1年かけて、どのような事業を推進できるかを検討していただきますが、「学校図書館教育委員



会」については、もう何年も学習における図書館の役割の重要性が言われていますので、学校における図書館教育のあり方について、司書教諭や学校司書の先生方と連携を図りながら、新たな方向を示していただけたらと思います。同様に、「情報教育委員会」も、GIGA スクール構想が現実のものとなり、ICT教育の一層の推進は焦眉の課題であります。そのあたりに焦点を当てていただくのも一考かと思います。いずれにしても、十分検討して、新たな一歩を踏み出していただきたいと思います。

以上、昨年度の組織改編及び事業内容の主な変更点についてご説明いたしました。この変更が単なる組織変更に止まるか、内容面の充実を伴った中身のある改変となるかは、1年目である今年度の取り組みにかかっています。そのためには、委員の先生方だけでなく、会員一人一人の積極的な取り組みが鍵となります。何とぞ、よろしくお願いいたします。

昨年度9月以降、限られた中で実施した事業の1つに、雑誌『上伊那教育』141号の特集がありました。「新型コロナウイルス対応の中での船出」と銘打ち、厳しい状況の中、先生方が学びの保障をどう進めたかについて、たくさんの実践を寄せていただきました。私たちは、コロナ禍の有無にかかわらず、子ども達の前に立つ1人の教職員として、大きな責任を担っています。それは、子ども達の安全を守り、安心して学校生活を送れるようにすること。学力をはじめとして、生きる力を身に付けるようにすることです。その責任を果たすためには、自分を磨く以外にないと私は考えます。そして、教育会には、いつでも自分を磨ける場があります。それは、人とつながり、切磋琢磨しながら学び合い、教職員としての底力を付ける場です。

以上を踏まえ、私は今年の上伊那教育会のテーマを

「改革・前進 ～『つながり、学び合い、自分を磨く』を続けるために～」

として、1年間活動を行っていききたいと思います。

コロナ禍にあっても、子ども達の学びを止めない取組を続けることと同様、私たち自身の学びを止めず、自分を磨く取組を、会員みんなで続けていこうではありませんか。そして、自分たちの取り組みを積極的に発信し、会員で共有すると共に、地域にも伝え、公益法人としての教育会の役割を果たして参りましょう。1年間、どうぞよろしくお願いいたします。

武田育夫 信濃教育会長 来賓祝辞

ただいま紹介いただきました信濃教育会の武田育夫と申します。本日は上伊那教育会総研修会『仰望の日』の開催、誠にありがとうございます。また、日頃より信濃教育会の諸事業にご支援・ご協力いただいていること、この場をお借りして感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大は教育のあり方を大きく変えようとしています。今まで「普通」と思われていたことが、「普通」ではなくなり、「日常」が「日常」でなくなる、こういったことは今まで経験したことはありませんでした。学校行事の多くは、「今までのように」という考え方では、できなくなりました。

さらに、社会全体の急速なデジタル化の動きは学校教育にもおよび、国の進めるGIGAスクール構想では、児童生徒が一人1台ずつタブレット端末を持ち、ネット上で様々な人やデータとつながることができるようになります。



しかし、どのように時代が変わっても、教育は教師と子どもの人間的な触れ合いが基盤にあります。子どもたちが自分の力を信じ、主体的に学んでいくその背後には、その子を信じて支えている教師の眼差しがあります。子どもたちが異なる価値観の人を受け入れていくその背後には、全ての子どもをありのまま受け入れようとする教師の存在があるのです。「存在が教育である」は信州の教師が大事にしてきた教育哲学ですが、このことが「激動の時代」といわれる現在、大きな意味を持つようになったと感じています。そして教師自身の人格的な成長を目指し、また教師としての力量を高めるため、私たち信州の教師は、教育会を作り、教育会に集い、自己研鑽に励むことを、先輩から受け継ぎ、実践して参りました。

最近、「教育会に入って何かいいことがあるのか」のように言う教職員がいるという話を聞きます。なぜ教育会に入るのかわからないということでしょうか。本県では教育会が当たり前に存在する訳ですから、その意味がよくわからないというのも、もっともな話です。

教育会が存在する最も大きな意味は、「教職員の自律性」ということにあります。教職員自らが求めるものを求め、子どもたちのために最もよいと思う教育を実現することを目指すことが、自律性です。それは県教委や市町村教委が示した、何々メソッドとか何々方式とか言われる、ある種の方法ではありません。教職員自らが研究し、同僚と議論し、検討し自律的に生み出したもので、授業を行うのが自律性です。

教育会の意味は、信濃教育会や上伊那教育会がなかったらどうなるか想像してみれば、容易に考えられます。教職員による自主的な研修がないわけですから、研修は教職員の求めとは関係なく、県教委による指定されたものを受けることになります。自らが学びたいことは、個人で民間の研修を受けるしかありません。そこに仲間はいません。

信濃教育会や上伊那教育会が実現してきたこと、そしてこれからも大事にしていきたいことは、「教職員の自律性」です。子どもに一番近いところにいる教職員が、自律的であったり自由であったりしなければ、子どもたちが子どもらしく、輝くはずがありません。

子どもたちの未来を担い、よりよい社会の形成者となる責任感と自負心が、長野県に教育会を生み出し、継承してきたのです。そして「人は人によって育てられる」ように、教師もまた教師によって育てられる、これが教育会の存在意義であり、教育会のもとに教職員が集う理由です。教育会に入ることは、自由を奪われることではなく、自由であるためなのです。

教育会は長野県の教職員独特の文化であり財産であり、貴重な資源です。多難な時代であればあるほど、専門職の集団である教育会が、その存在価値を発揮する時となります。いまでも、他県からは「長野は何をしようとしている」と注目される理由がここにあるのです。

信濃教育会は、上伊那教育会と手を携えて、子どもたちのため、そして豊かな社会を形成するために進んで参ります。是非多くの仲間が集う信濃教育会、上伊那教育会でありますよう、今後ともよろしく願い致します。本日は、誠におめでとうございます。

会員発表 池上一輝会員（伊那東小）黒河内香会員（伊那中）



<会員感想>

- さまざまな工夫を凝らしながら日々の授業作りに磨きをかけている先生、研修会を通じて自身のスキルを高めようと努力を積み重ねている先生の姿に力をいただきました。
- 一人一人違った特性を持つ子どもに、如何に関心意欲を持たせるか、子どもの微妙な反応をどう見取り寄り添っていくか、子どもたちを温かく迎え一人一人をやわらかく包み込む教科指導・生徒指導はどうあったらよいか、研修に研修を重ね日々研鑽する先生方の魅力的な発表は、私自身の指導への一助となりました。
- 文学研修でどのようなことをしているのか知りませんでしたが、お話をお聞きしたり、同じ本を読んでもたりして、他の先生方と話し合っていることや、難しい本ではなく芥川賞を受賞した最近の本も読んでいることがわかり、とても楽しそうだと感じました。

講演 渡部潤一氏（国立天文台副台長）

続々見つかる「第二の地球」候補 ～地球外生命発見への期待～

<会員感想>

- 宇宙にはまだまだ私たちが知らない世界があり、今後どんな形でどういう風に事実として私たちに周知されていくか楽しみです。私たちと同じように生物体が本当にいるかもしれないという期待感もてました。
- 天の川銀河だけでも約 40 億個の惑星が地球とほぼ同じ状況の星があることに驚きました。UFO って一時期はやりましたが、本当に実在するかもって渡部先生のお話を聞きながら考えてしまいました。宇宙の未知の世界の新発見に心躍らされます。

浦山哲雄 上伊那教育会副会長 閉会の言葉

昨年度は開催することがかなわなかった公益社団法人上伊那教育会総研修会『仰望の日』が、初めてのオンラインという形をとりながら、皆さまのご協力を得て、開催できましたことを心より感謝申し上げます。

会員発表では、お二人の先生から、上伊那教育会で大切にしている三大研修のうち、授業研修会、文学研修会に参加し、自分一人では気づけなかった学び、みんなで読み合う楽しさ等、教育会の研修で共に学ぶ良さを語っていただきました。ありがとうございました。

上伊那教育会合唱団の皆さんには、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し、合唱発表を急遽中止とさせていただきました。合唱団の皆さんの、澄んだ歌声と美しいハーモニーをお聴きできる日が早くくることを願ってやみません。今後ともよろしく願いいたし



ます。

そして、ただ今は、渡部潤一先生に、宇宙に対する夢が広がり、未知への新たな挑戦を楽しみたい、そんなご講演をいただきました。

上伊那教育会の今年のテーマは「改革・前進 ～つながり、学び合い、自分を磨く を続けるために～」です。上伊那教育会は、このような状況下ではありますが、できることを考え、様々な研修の場を用意してまいります。子どものために、自らを高めるために、集い語り学び合ひましょう。

最後になりましたが、信濃教育会会長 武田育夫様には、お忙しい中をお越しいただき、ご光彩を添えてくださいましたことに、心より御礼申し上げます。

本日ここに、オンラインを通し、共に学び合った、すべての皆様方のますますのご健勝・ご活躍を心よりご祈念申し上げ、令和3年度公益社団法人上伊那教育会総研修会「仰望の日」を閉じます。ありがとうございました。

<会員感想>

- 〇コロナ下のため昨年は開催できなかった「仰望の日」が、今年はオンラインで開催できました。少しずつではありますが、希望の光が差し込んでいる実感がもてました。
- 〇コロナへの不安がまだ続く中、学級閉鎖等の話も聞きます。授業時数の確保からも半日開催としていただいたことは安心につながりました。ありがとうございました。
- 〇オンライン開催にあたり、係の先生方の準備・運営は大変だったと思いますが、スムーズな運営により充実した会になったと思います。まさに、今年のテーマ「改革・前進」にふさわしい「仰望の日」になったと思います。

【司会：浜田志のぶ会員】



【オンライン開催の風景】



例年と違いオンライン開催とはなりましたが、会員の皆様のご理解とご協力により、充実した「上伊那教育会総研修会『仰望の日』」となりました。誠にありがとうございました。